

(12) 沖縄



沖縄地域では、景気は着実に回復している。

- ・ 観光は堅調に増加している。
- ・ 個人消費は堅調に増加している。
- ・ 雇用情勢は着実に改善している。

(注) 下線を付した箇所は、前回からの変更のあった箇所を表す(↑は上方に変更、↓は下方に変更)

前回調査からの主要変更点

	前回(平成29年11月)	今回(平成30年2月)	
住宅建設	増加	減少	

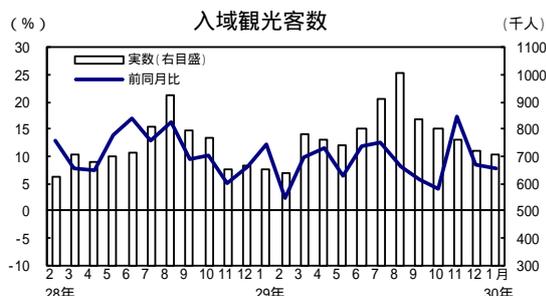
1. 観光及び企業動向

(1) 観光は堅調に増加している。

入域観光客数のうち、国内客について、10月は、台風の影響で欠航便や旅行のキャンセルが多数発生したことにより、前年をやや下回った。11月は、修学旅行や離島直行便の実績が良好であったこと等により、前年を上回った。また12月は、年末年始の旅行需要の高まりで、臨時便の就航など航空路線の拡充があったこと等により、前年を上回った。

外国客については、10月は、大型連休絡みで航空会社によるチャーター便の就航があったことや、今年最大の大型クルーズ船が2度寄港したこと等から、前年を上回った。11月は、直行便の就航など航空路線の拡充があったことやクルーズ船の寄港回数が増加したこと等により、前年を上回った。12月は、年末年始の旅行需要の高まりや、アジア路線の増便など航空路線の拡充があったこと等から、前年を上回った。

主要ホテルの客室稼働率は、那覇市内ホテルは前年同期を下回ったものの、リゾートホテルは前年同期を上回っている。



入域観光客数等の動向

(単位: 千人、%)

	29年4-6月	7-9月	10-12月	30年1月
入域観光客数	2,299	2,748	2,281	704.3
(前年比)	9.8	8.8	9.6	7.9
ホテル稼働率	80.5	88.5	78.3	-
(前年差)	1.3	0.4	0.3	-

(備考) 1. 入域観光客数は沖縄県観光政策課調べ。

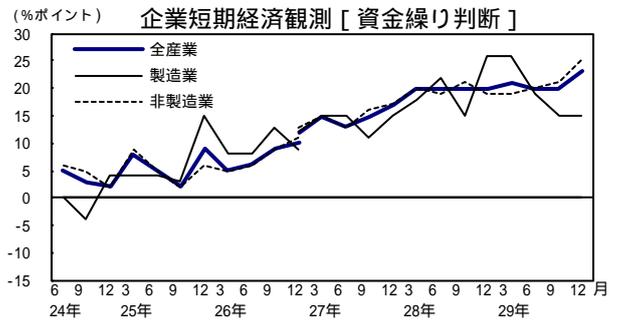
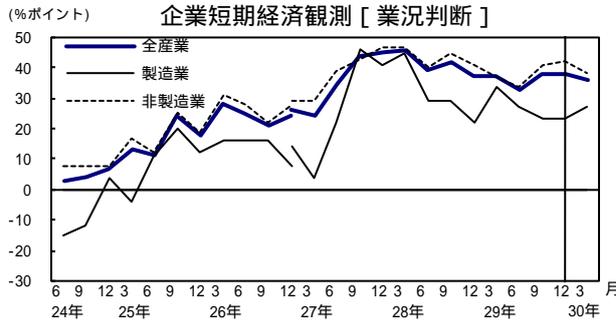
2. ホテル稼働率は日本銀行那覇支店調べ。

3. ホテル稼働率の前年差については、内閣府にて算出。

(12) 沖縄

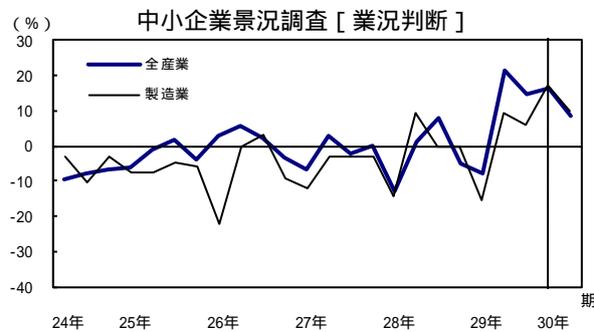
(2) 日銀短観における業況判断は「良い」超幅が横ばいとなっており、資金繰り判断は「楽である」超幅が拡大している。

企業短期経済観測調査及び中小企業景況調査



(備考)「良い」-「悪い」回答者数構成比。30年3月は予測
26年12月は新・旧基準を併記。

(備考)「楽である」-「苦しい」回答者数構成比。
26年12月は新・旧基準を併記。

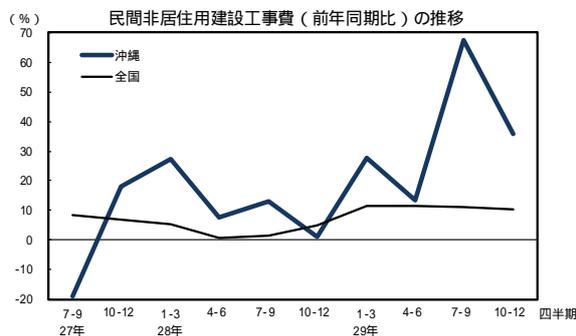


(備考)「好転」-「悪化」回答者数構成比。30年 期は見通し。

景気ウォッチャー調査(1月)[企業動向関連(現状)]

「3か月前と同様に、受注金額はまあまあ良い(建設業)」などの回答がみられた。

(3) 設備投資の民間非居住用建設工事は前年に比べて大幅に増加している。



企業短期経済観測調査 [設備投資(12月調査)]

(前年度比、%)

	28年度実績	29年度計画
全産業	28.3	38.3 (2.4)
製造業	113.5	4.5 (1.1)
非製造業	19.2	44.7 (2.6)

(備考)()は前回(9月)調査比修正率。

(備考)29年4-6月期以降は国土交通省「建設統計月報」の非居住用建築物工事費予定額を平均工期9.8か月で進捗展開し、その伸び率を基に実績額を延伸。

2. 需要の動向

(1) 個人消費は堅調に増加している。

地域別消費総合指数 (RDEI (消費))

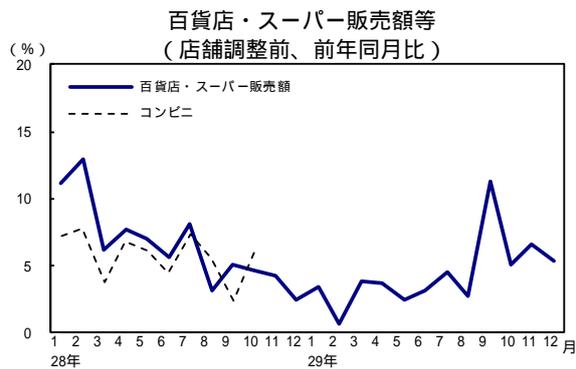
10月は前月比0.5%増、11月は同0.3%増、12月は同0.5%減となった。

百貨店・スーパー販売額

10月は、2週連続の台風による影響はあったものの、食料品等が好調だったこと等から前年を上回った。11月は、催事効果やお歳暮ギフトが伸長したことや外国人観光客による消費が好調だったこと等から前年を上回った。12月は、前年より気温が低く推移したことやセール効果で冬物衣料が伸長したこと等から前年を上回った。

景気ウォッチャー調査 (1月) [家計動向関連 (現状)]

「冬物衣料品クリアランスは順調にスタートできたが、寒波の影響を受け、春物衣料品の動向が厳しかったり、葉野菜の高騰等で、食料品も苦戦した (百貨店)」など「やや悪くなっている」とする回答が増加した。

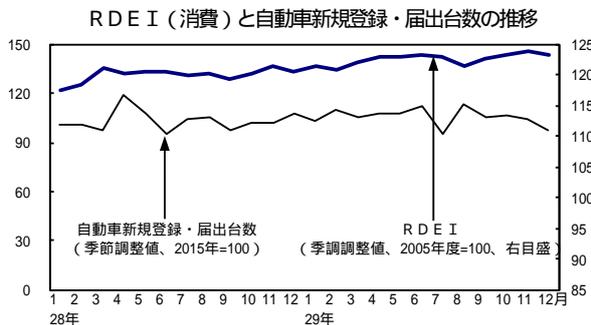


	29年10-12月	29年10月	11月	12月
RDEI (消費*1)	0.8	0.5	0.3	0.5
百貨店・スーパー(*2)	5.7	5.0	6.6	5.4
コンビニ(*2)	5.5	5.1	6.6	4.9
乗用車(*3)	1.6	4.7	2.7	10.3
(季節調整値)(*3)	1.9	0.9	1.7	7.0

(備考) 1. 季節調整済前月(月)比 (%)

2. 百貨店・スーパーは経済産業省調べ (店舗調整前)、コンビニは日本銀行別荘支店調べ、2016年11月以降の計数は不連続。前年同期(月)比 (%)

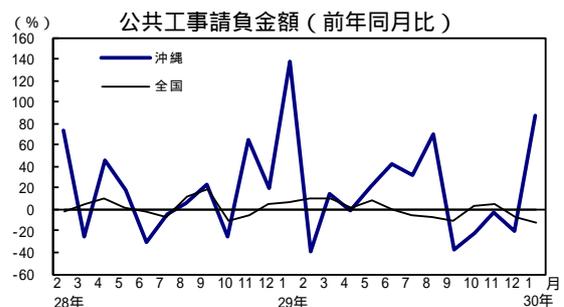
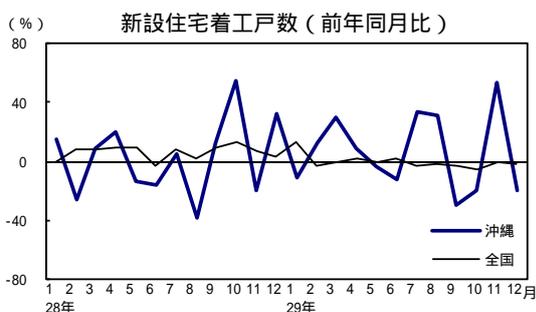
3. 乗用車は、乗用車新規登録・届出台数(上段は前年同期(月)比 (%))



(2) 住宅建設は前年に比べて減少している。

分譲が前年を上回ったものの、貸家が大幅に下回ったことから、全体では減少している。

(3) 公共投資は29年度累計で見ると前年度を上回っている。

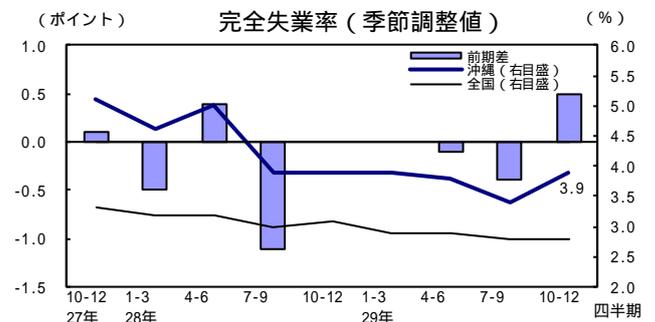
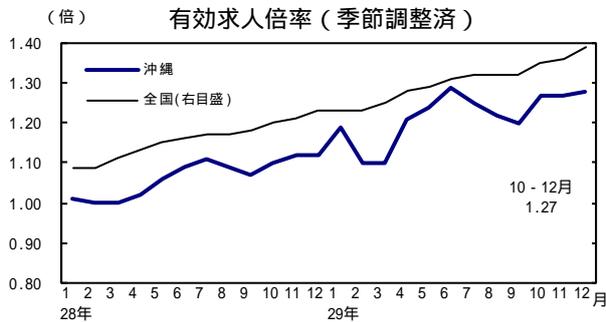


3. 雇用情勢等

(1) 雇用情勢は着実に改善している。

有効求人倍率及び完全失業率等

有効求人倍率は上昇している。完全失業率は前期を上回っている。



(備考)沖縄県「労働力調査」の月次値を、内閣府にて四半期平均化。

景気ウォッチャー調査(1月)[雇用関連(現状)]

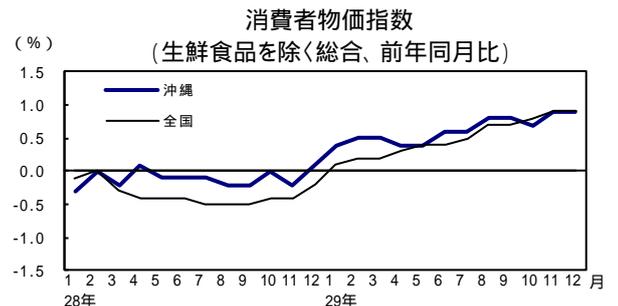
「人手不足により様々な企業からの求人の問合せが多いが、求職者が少ない状況が続いているので、お断りするケースも増えている(人材派遣会社)」などの回答がみられた。

(2) 企業倒産は前年に比べて件数は大幅に増加、負債総額は増加している。

(3) 消費者物価指数は前年比の上昇幅が拡大している。

企業倒産

	(件、億円、%)				
	29年1-3月	4-6月	7-9月	10-12月	30年1月
倒産件数	20	8	7	16	2
(前年比)	33.3	33.3	16.7	77.8	50.0
負債総額	27	6	5	25	6
(前年比)	1.5	28.6	32.4	98.2	339.7



景気ウォッチャー調査(1月調査結果)[合計(特徴的な判断理由)]

<現状>

- 観光客は増加しているが、単価は低くなっている。ビルの建て替え、建築が増えている。しかし、求人は売手市場であり、労働集約型の事業では慢性的な人手不足で、当店でもスタッフ不足、稼ぎ時の週末に、全ての来店者を入れることができず、機会損失を起している(その他飲食[居酒屋])

<先行き>

- 商店街では物販、特に衣料品関係が厳しく、毎月売れなくなっている状況である。遊びに来て、買物をするかはまた別である。景気が上向き状態なのは一部であって、末端の零細企業は大変厳しくなっている。一方で、手軽にできる飲食店、飲み屋等がここ4~5年で70店ほど増えて、管理面で問題も起こりつつある(商店街)

景気ウォッチャー調査(季節調整値)

